

# ボランティア体験

山西省・太原市外国語学校 高2（女）

楊 賛

2012年9月から日本で一年間留学していました。2013年2月に、日本各地に行っていた同期生と一緒に仙台に集まり、4泊5日の中間研修を行いました。そして、初めてボランティア活動に参加しました。

2月3日に東日本大震災の被災地南三陸町と石巻市・雄勝町に行きました。前からテレビや新聞で東日本大震災についていろいろと知っていましたが、実際に自分の目で被災地の様子を見たら、やはり傷みを感じるほど驚きました。

翌日に、ボランティアとして、すずり工場の再建準備のお手伝いをしました。地震や津波で壊れてしまって、もう使えない石がたくさん転がっていました。それを海辺に運ぶのにまずトラックに積まなければなりませんでしたが、しかし人手が足りないで、作業がなかなか進まなかったのです。同期生のみのおよび係りの先生が一人列になり、石を一人ずつ隣の人に回して行って、トラックまで運んできました。簡単そうに見える作業でしたが、少し気を抜いたりして、石を地面に落としたことが何回もありました。それに、二時間半ぐらいやり続けていましたが、総量の五分の一しか運べませんでした。途中、つい喋ったり、歌ったりしたみんなが先生に注意されました。元気に作業をやるのはいいことですが、あまりにも楽しそうにやっていると、知らないうちに地元の人を傷つけるかもしれません。震災から2年経ちましたが、被害を受け、家を壊され、仕事を失い、さらに家族や親友が亡くなられた人には、まだふさがっていない心の傷が残っているかもしれません。だから、常に周りの人の気持ちを考えて、思いやりの心を持つことがとても大事だと、その場で実感しました。

これは私の初のボランティア活動でした。今回の活動を通じて、被害を受けた人々の大変さを実感し、地元の人との付き合いでとても心強いものを感じました。それは生きていく信念なのです。東北は震災後、厳しい条件のもとで、人々が頑張っ

生きています。すずり工場の再建だけではなく、貝養殖の浮き、小さな商店街など、いろいろなことをゼロからやり直し、元に戻すように少しずつ頑張っています。また、ボランティアとしてどうすればいいのかというのも、自分なりの見方が少しできていました。それは、人を助ける時に、自分が一番いいと思うやり方でやるのではなく、相手の立場になって、実際に相手のことを考えながら、相手が気持ちよく受けてくれるやり方でやるべきです。ボランティアとして活動するのは思ったより難しく大変でしたが、かなりやりがいがあると思います。

振り返ってみると、自分の周りにもボランティアとして活躍している人がたくさんいるし、自分も気づかないうちに恵まれていることがよくありました。例えば、日本にいる間に、ずっとホームステイしていて、ホストファミリーが私のことを娘や妹だと思ってくれて、家族のように扱ってくれていました。そのおかげで、早く馴染むことができ、留学生生活を思い切り楽しみながら、日本についてもいろいろと知るようになってきました。帰国しても、そこでの生活を思い出すたびに暖かい気持ちとなり、第二の故郷のような気がします。ボランティアとして私を受け入れた日本のホストファミリーに心の底から感謝しております。

自分がボランティアの経験をしたからこそ、そういう活動の大切さが分かって、身の回りのボランティアの姿に気づけるようになりました。老人ホームや孤児院に行くと、家族のないお年寄りや子供のために何かをすとか、野良猫や野良犬の面倒を見るとか、余裕のある家庭はホストとして留学生を受け入れ、正真正銘の地元文化を感じさせるとか、18歳になってから献血すとか……もちろん、それらのことだけでなく、例えば、インターネットでアンケートに答えるとか、外国の映画やドラマに字幕を付けるとか、そういう小さなことをやっている人でも、ボランティアと言えるでしょう。何と言っても、誰かのために何かをしようという気持ちももっとも大切だと思います。

ボランティア活動の一番の魅力は自分の一つの善行が原点として、たくさんの善行につながるのだと思います。日本にいる間に、ホストマザーに留学生の受け入れを始めたきっかけを聞きました。すると、娘さんが中学生の時、外国でホームステイした経験があり、とてもいい思い出となったことがきっかけで、自分の子供たちが自立して、少し余裕が出た後、こういうボランティアを始めたという答えをも

らいました。日本家庭の善行は以前お世話になった家庭に直接報いることはできなかったかもしれませんが、私にいろいろとしてくれました。私も自らの体験からボランティアのすばらしさを感じ、今後ボランティア活動を続けていきたいと思いました。このようにすれば、人と人との絆となり、気持ちよく生活できる社会を作ることができるでしょう。

ボランティア活動で実際に学んだことを生かして、これからもやりたいと思っています。みなさんにも、ぜひボランティアとしての誇りを経験してもらいたいです！